

山形県民教連通信

<http://www.asahi-net.or.jp/~gy6e-kjm/>

Contents

2023.2.25 No.75

| |
|-------------------------------------|
| 巻頭言「さあ、未来に向かってさらに進もう！」(設楽会長) ... 1 |
| 東北民教研天童集会 総括 ... 2 |
| 冬の学習会2023を開催、参加者の感想 ... 3 |
| 研究会に参加して (県生研 大場)、(数教協 山川) ... 5 |
| 春の学習会2023案内 ... 7 |
| 《特別寄稿》「鶴岡市加茂地区の風力発電、…」(長南 厚) ... 8 |
| 街角の平和論「『凍りの掌が』描く絶望の光とは…」(田口) ... 10 |
| 随想「沖縄で暮らす 守れるのは、私たち…」(早坂) ... 12 |

山形県民間教育研究団体連絡協議会 通信
 <発行人> 山形県民教連事務局
 〒990-0044 山形市木の実町12-37
 県教組山形地区支部内
 TEL/FAX 023-631-2112/2126
 E-mail yamagata@yamagata-kenkyouso.gr.jp
 <編集人> 鬼島 悦雄 kijima@e.email.ne.jp

巻頭言

天童集会をおえて
 あらためて感じた
 東北の「太い絆、
 学ぶ意欲の高さ」・山形県民教連の強さ



- さあ、未来に向かって
 さらに進もう! -

山形県民教連会長 設楽 隆雄

コロナ禍によって3年ぶりに開かれた対面での東北民教研集会。

会場の受付では、「久しぶり!元気だったあ。」
 「対面での集会を開いてくれてありがとう!」という声を何度もききました。ああ、みんな待ち望んでいてくれたんだなあ、気持ちが一緒だったなあとうれしくなりました。

集会の内容は、分科会、特別分科会、講演の3本でした。(このほかに基調学習あり)これまで山形県での集会で行ってきた「地元企画行事」はコロナ禍の中でできなくなりましたが、それでもどの学習とも中身が濃く、東北の仲間の学ぶ意欲の高さを感じました。

分科会は、どの会とも廊下に響くほど活発に意見が交わされていました。対面なので、仲間の気配を感じながら次々と語り合い、あっという間に

時間が過ぎました。コロナ禍の中で蓄積してきた多くのすばらしい実践が報告されました。

特別分科会は、東北の抱える課題や山形からの発信ということで「震災」「原発」「コロナ禍の教育」「地域と学校」「教員不足・少人数学級実現」「北方教育 鈴木輝男から学ぶ」などの6つの会が開かれました。優れた実践が報告され学ぶべきところがたくさんありました。ただ、報告に多くの時間が費やされ、質疑討論などの課題を深める時間が足りなくなってしまいました。

講演は『複雑化の教育論』という演題で内田樹氏に語っていただきました。「先生方は頑張りすぎない」「お気楽な学校がいい」「子どもたちを『歓迎』『承認』『祝福』で接する」などというキーワードをもとに教師の子どもへの接し方や立ち位置を教えてくださいました。



2時間に及ぶ講演でしたが、絶えず笑い声が響き、短く感じる講演でした。

そして、交流会では感染に気をつけながら楽しく交流しました。

この集会の意義、感謝したいこと、学ぶべき点
 ○だれもが自由に参加できる集会になった!

主催者が「東北民教連」になって初めての集会でした。これまで、教職員組合の組織の違いによって参加をためらっていた方々も気軽に参加できるようになり、学習が深まりました。

また、教育委員会やPTAなどの後援もいただき、参加しやすい環境が整いました。

○東北の仲間のあたたかい支援に感謝!

コロナ禍の中での対面での開催だったので感染

対策に配慮し、例年と違い宿泊部屋と分科会会場を別にしました。そのために会場費が高くなり頭を悩ませていましたが、参加者の皆さんに県民割に付帯するクーポン券を当てさせてほしいとお願いしたところ快く了承されました。それどころか運営委員会では、特別分科会でカンパを回すことが提案され、回覧していただきました。東北の皆さんの温かい支援に感謝します。

○山形県民教連の力が発揮できた！

参加者が増える。しかも若い先生方が

山形県民教連としてこの集会をつくるにあたって、「新しい先生方に民教研のことを知っていただき、実践に触れて民主教育を推し進める仲間になっていただきたい。」と考えて取り組んできました。

天童集会の参加者は全体で202名です。コロナ禍の中でも、67回(211名)、68回集会(227名)とほぼ同じ人数を集めることができました。しかも、山形県だけの参加者をみれば63回蔵王集会より33名も増えています。

若い先生方も多数参加してくれました。会員の皆様の声かけや県教組山形地区支部の呼びかけの

おかげです。若い先生方が参加している分科会では、若い先生方の声に応えるべくベテランの方も熱く討論していました。

若い先生方も学ぶ意欲をもっています。天童集会の取り組みから、「早目に」「魅力ある学習を企画し」「声をかけ」「楽しく学習する」ということが大切であるということがわかりました。

「来ると学べる」「会うのが楽しい」「一緒に話すと楽しい」と思ってもらえる場をこれからもつくっていきたいです。

会員の皆さん、実行委員の皆さん、参加された皆さん、ありがとうございました。

詳しい天童集会の様子は記録集をご覧ください。

2023年は青森集会です。今から予定に入れておいてください。



第69回東北民教研天童集会 総括 (一部抜粋) 2022年8月7日～9日 山形県天童市 天童ホテル・山形県青年の家

コロナ禍の影響により2020年8月に開催予定の69回集会は延期し、開催可能の時期まで引き続き山形県民教連が主管を継続、2021年11月3日「主催に関わる確認書」を締結、2022年8月7日から3日間の日程で、天童ホテル並びに山形県青年の家を会場に天童集会が対面開催された。

集会運営の成果と課題

- ・2カ年に及ぶ延期や感染症の収束が進まないことを反映し、前回山形開催の第63回蔵王集会と比べ本県以外の参加者は減少した。一方、主催者問題が解決、新採教職員への積極的な呼びかけ、記念講演師 内田樹氏の知名度の高さと早期の講演会周知、実行委員の奮闘等により、本県からの参加者は蔵王集会と比べ増加した。
- ・教育現場の忙しさは一向に解消されない。しかし、子どもにとってよくわかる、わくわくする、学ぶのが楽しく力がつく実践をしたいという要求は広く潜在していることが再確認できた。
- ・当初予定していた学校の会場使用は感染症を理

由に許可されなかった。体育館使用が前提の音楽、ワークショップや実験がある理科、生活科総合、参加者数の最も多い生活指導の4分科会会場として山形県青年の家を借用した。

- ・分科会の参加者は、16分科会に181名。花巻集会に続き「教師の文学活動」「技術と教育」「幼年と教育」分科会は休会、新たに「演劇と教育」が本集会より休会となった。開催した全ての分科会に本県からの参加者を組織することができた。
- ・特別分科会は79名参加。東北の地が抱える課題、山形から発信したい問題提起を中核に過去最大の6分科会を設定し取り組んだ。感染症の再拡大により地域住民や父母への積極的な案内は控え、教職員並びにOB中心の参加者となった。運営は担当県に一任したが、2県で担当する分科会等で曖昧になったり、報告を聞くことに多くの時間を費やし、課題を深める時間が足りなくなったりした。

< 詳細は記録集を参照ください >

「教育と愛国」は、並列に扱いながら、とんでもない介入の事実を映像と音声で表現した映画です。あからさまな政治介入、いくつもの証拠、言い訳、歴史に残る権力の無様な策略を映し出してくれた勇氣あるジャーナリスト達に感謝します。

ただ、展望は描かれておらず、私たち観た者がこれらの理不尽さを正していかなければなりません。安倍という根源は消えても法規が残っている以上、従わなければなりません。それは変だ、おかしい、という声が高まって、変えていく民主主義が成熟するようにしていきたいですね。

今、憲法を改悪して、この国の方向を変えてしまうのかの瀬戸際にあります。良心を集め、そして広め、憲法をすでに蔑ろにしている者達に対し、法を押し戻していく、守りから攻める力を得たいと思いました。

早坂 久佳



「教育と愛国」の映画は、見たかったけれども見れなかったのが、今回上映の機会をいただいて非常にありがたかったです。

歴史から学ぶ必要性は大いにあると思います。日本がこれまで間違ってきたこと、ふさわしくないことをしてきたとしても、それをごまかしたり美化したりすることなく、間違いを間違いと認め、それを正していったり、二度と犯したりしないようにするにはどうしたらよいかということ、教師として子どもたちと一緒に考えていたいと思います。

田口先生のご講演から、改めて、今を当たり前で生きていることの大切さを、平和でいることだけでなくその重要性を子どもたちと共有することの大切さを知りました。現在、6年生を担当していますが、小学校生活が残りわずかだからこそ、東日本大震災やウクライナの戦争等、できる限り授業で取り上げ、ともに平和について考える学習ができればと思います。

(匿名希望)

「教室から平和に愛をこめて～平和のバトンを子どもたちにどう渡すのか～」のタイトルは、私の胸に突き刺さりました。「今のあなたはどうか。」と。

私が初任者の頃、職場の先生方は「若い人が入ってきたから、今年の職員旅行は長崎だな。」と言って、長崎の平和公園・原爆資料館に連れて行ってくださいました。(立ってられないほどの衝撃を受けました。)数年後には広島に。また長崎に。職場の先生方や当時若い先生方と第二次世界大戦における日本の戦争被害と加害について学習しました。「教え子を再び戦場に送らない」を胸に教材研究をしていた頃が思い出されます。

今はどうでしょう。ロシアのウクライナ侵攻とその攻防の戦争は終わりが見えず、ロシアに攻撃されたウクライナ各地の惨状が放映されない日はありません。こんな時に平和外交を最優先すべき我が国の総理大臣は「防衛費の増額? 敵基地攻撃能力? 軍拡?・・・」。ただ事ではありません。しかし、職場ではそんな話は一切出ません。

田口先生のご講演からは学ぶところがたくさんありました。「世界史の授業」「10分の平和学」たくさんの示唆をいただきました。すぐに誰かに教えたくくなりました。田口先生の授業を受けている高校生の感想カードに「軍事力の強化は望まない。」と結んであるものがありました。

私も子どもたちと、また周りの人たちと平和について語り合っていかなければならないと思いました。貴重なご講演をありがとうございました。

近野 享子

ほんとうに久しぶりで冬の学習会に参加しました。退職以来、積極的に教育についての情報を集めることをしてこなかった。その間に「教育をめぐる情勢」が大きく変わってしまった。

元中学校教師で「社会科を担当した者としての責任」のようなものを、今感じている。(こんなものあるのかという人もいるだろうが)

積極的に情報を集め、適切に“発信”することが求められているのではないかと。映画「教育と愛国」は、“我関せず”ではいかんと思われ知らされる、そういう映画であった。日本がどこに向かっているのか、それに抗して私達は何をしなければならないのか、しっかり考えたい。よい機会をいただいたことに感謝!

青木 慶一

今回行われた基調講座を聴くにあたって、田口先生の『街場の平和論』を思い出してみた。新聞記事やテレビ番組だけでなく、J-POPの歌詞からでも平和とは何かを問っている。『街場の平和論』を読む前の自分だったら「平和＝戦争をしない」しか考えが浮かばなかったが、平和は私たちの生活のどこにでも散りばめられているのだと気づき、そこから私なりに平和について問い続ける日々を送っている。今回の基調講座は、平和について深く考えるきっかけをいただいた。

田口先生は高校生に平和のバトンを渡し続けてきた。私は小学校の教員だが、田口先生のように今私の目の前にいる子どもたちにも平和のバトンを渡していきたいと強く思った。そのために自分はどうしたらいいのだろうか？ そのヒントが今回の講座の中で紹介していただいた沖縄全戦没者追悼式でのスピーチや、保育士の方の実践だった。戦争を実際に体験していない私ができることは、子どもたちが平和を実感できる世の中がずっと続くよう、子どもたちが安心・安全な生活を送れるよう学校から支え続けていくこと。そして、私自身が平和を求め続けていくことだ。

後藤 美子



学習会（映画上映と基調講座）の終了後、2023年次県民教連総会がおこなわれ、昨年度の総括と新年度の方針が話し合われました。*議案書中の「2023年次予算(案)」に一部間違いがありましたので、以下のように訂正をお願いします。

特別会計 三段目「・従って実質の黒字は…」
以下の訂正

- ・従って実質の黒字は81,279円となる。
- ・81,279円のうち30,000円を2023年次予算の「雑収入」に入れ、残りの51,279円と天童集会所前の積立準備金60,012円を合算し、第75回東北民教研本県開催の新たな準備金として111,291円を特別会計化したい。

研究会に参加して

全生研東北地区学校 福島大会に参加して

大場 理之（県生研）

11月26日・27日の1泊2日で飯坂温泉あずま荘で開催された。昨年は青森での1日開催だったため、泊を伴うのは、19年の宮城大会以来3年ぶりである。東北各県から20名を超える参加があり、山形からの参加は3名だった。

分科会は小学校と中学校の2つだったが、小学校は途中から2つに分かれて実戦分析を行った。小学校分科会に途中から参加したが、レポートは

4本出され、そのうち2本は万引き事件、もう2本が特別支援学級での学びづくりのレポートだった。

2日目の全体分析になったのが、宮城の先生の実践レポートで、男子2人が一緒に遊んでいる時にお店のお菓子を盗んでしまったことへの対応をまとめたものだった。担任は、万引きしたことを責めないで、二人から冷静に事情を聞いた。担任は二人と信頼関係ができていて、二人とも事実を正直に伝える。担任は、万引きしたことは悪いことを伝えるだけでなく、子どもたち自身に考えさせるように話をする。その後、2人から話を聞くと、家のことを話し、どちらの家庭も両親のけんかが絶えず、落ち着かない状況であることがわかる。

そこで、2人の母親と連絡を取り、おしゃべり会をもつ。母親たちと繋がることで母親たちの抱えている悩みに共感し、母親とも信頼関係を築き、親も安心して担任と話をしてくれる。どこまで家庭の問題に踏み込んでいいのかが討論の柱にあげられたが、今はなかなか親との共同がつくりにくい状況の中、同じ女性・母目線で話ができることは強みであると感じた。

全体講演は、全生研研究全国委員で山梨大学の高橋英治先生が「コロナ禍の中でも安心の世界を教室に～子どもの声を聴き、子どもと出会うために～」というテーマで話をしていただいた。たくさんの資料で内容も盛りだくさんだったので、どうまとめるのか難しかったので、講演の一部を紹介する。

コロナ禍が顕在化させた問題は、コロナによって、残酷なまでに人と人を切り離し、分離していくことで、これは、コロナ禍以前からあった問題がより顕在化した。コロナ禍によって、もともと不安定な就労状態だった労働者やもともと低所得者世帯に影響が大きく出た。オンライン教育を受ける環境がなかったり、学力の低い子どもの勉強時間が顕著に減少していったりするなど、教育機会を抑制するとともに格差を拡大させてしまった。

再開後の学校は、安全管理・健康管理、学力保障・学習権の保障、子どもたちの学びの交わり・関わりの機会の保障という3つの方針間で葛藤や矛盾を抱えてしまい、子どもたち一人一人の声を聴き取られなくなった。その結果、いじめ・暴力行為の問題行動や不登校者数の増加の一因になった。

コロナ禍の中でも安心の世界を教室につくるためには、生活指導・集団づくりの実践が必要である。子どもをまるごととらえ（子どもの生活現実をつかむ）、子ども声をきく（子どもの「要求」に「応答」する）ことである。そして、学校・学級を、子どもたちを「ケア」し、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を保障するための場、

社会参加にひらかれた「学び」の追求の場、子どもたちの成長や発達の必要な交わりと関係を保障する場所として子どもたちの「要求」実現に向けた「自治」の追求をする場にしていこうである。

3年ぶりの東北地区学校の参加だったが、夏に東北民教研天童集會に参加していただいた東北の仲間への感謝の気持ちも含めて参加した。実践分析はオンラインでもできるが、直接顔を合わせて

話し合うことでお互いの表情や反応が伝わってくるので、集まることの意義を実感することができた。



「沖郷小放課後子ども教室」に参加して

山川 貴子（数教協）

1・2年生の子どもたちと一緒に、算数のかけ算の導入場面を学習しました。1年生もいるので、かけ算をすとも何とも伝えず、おもむろに紙コップを3つ並べて置いて見せ、「この中に入っている全部のタイルの数を当ててみよう。」と問題を出しました。この数当ての問題を考えていきながら、

1つのコップに入っているタイルの数はいくつか

どのコップにも同じ数ずつ入っているか
この2つがわかれば数が当てられることに気づいてほしいというのがねらいでした。

そこで、当てるための質問も2つまでしかできないことにするのがポイントでした。

子どもたちが一生けんめい質問を考えてくれるなかで、しばらくすると2年生の女の子ができたと言うのです。


「まん中のコップには何個入っていますか？」

「右と左のタイルを合わせた数は何個ですか？」

すごい！確かにちゃんと2つの質問になっていました。（ええー？こんな反応、実践レポートなんかでも見たことなかったよ）と、こちらの方がしどろもどろに。改めて子どもの発想の自由さに感心しました。これが子どもとの学びの楽しいところなんだなあと思いました。

午前中からいろんな勉強をしていたとのことでしたが、午後からも算数で頭を使ってくれた子どもたち、サポート役の先生方、楽しい時間を共有してくださりありがとうございました。





山形県民教連 春の学習会2023へ

学校現場で実績を積んできた先輩の実践に触れる

3月25日 明日の授業のための 土曜日は… 教育実践講座

| | | | | |
|------|--------|-------|--------|-------------|
| 9:15 | 9:30 | 11:00 | 11:10 | 12:40 |
| 受付 | 実践講座 A | 休憩 | 実践講座 B | 感想意見 等回収 |

講座時間割 会場 山形国際交流プラザ ビッグウィング4階

| コマ | 時間帯 | 第1研修室 | 第2研修室 | 401会議室 | 402会議室 | 403会議室 |
|-----|-------------|-------|-------------|--------|----------------|----------|
| 講座A | 9:30~11:00 | 特別支援 | 学級集団 づくり | 算数・数学 | 教員のメン タルヘルス | 国語 作文 |
| 講座B | 11:10~12:40 | 社会科 | 学級集団 づくり | 理科 | 生活科 総合学習 | 国語 読み |

国語
読み

佐賀井 伸 先生
鶴岡市立豊浦小学校

算数
数学

早坂 久佳 先生
県数教協 事務局長
山川 貴子 先生
県数教協 会員

社会科

鈴木 昭彦 先生
鶴岡市立櫛引南小学校

近野 享子 先生
高島町立高島中学校
奥山 睦子 先生
山形作文の会 会員

国語
作文

生活
総合

小野寺 勝徳 先生
宮城県 大崎市立鹿島台小学校

教員の
メンタル
ヘルス

須藤 好子 先生
一般社団法人日本アンガーマネジメント協会
アンガーマネジメントファシリテーター
(元養護教諭)

理科

丸山 哲也 先生
茨城県 前 科教協委員長

植松 保信 先生
全生研・研究全国委員
設楽 隆雄 先生
県生研 会長

学級
づくり

特別
支援

後藤 美子 先生
山形市立南沼原小学校

参加費など

| | |
|--------------------------|-------|
| 参加費（学生と新採3年目までの教職員は無料招待） | ¥1000 |
| 通信協力費（年次会費）民教連通信をお届けします！ | ¥1000 |

特別寄稿

鶴岡市加茂地区の風力発電、



建設場所が問題です！

出羽三山の自然を守る会
長南 厚（鶴岡市）

鶴岡市の海岸部、有名な加茂水族館の近くの山に、風力発電の大型風車の計画が出てきました。

この計画は次のような問題があり、昨年11月に「反対する会」を立ち上げ、建設反対を求める署名運動を開始しました。本来自然エネルギーの活用は、地球温暖化防止や原子力発電所をなくすために必要で重要なことだと思いますが、太陽光発電と同様、どのような場所を選ぶかが問われます。

《ラムサール湿地「上池」での自然教室》

反対理由の第一は、ラムサール条約に登録された「大山上池・下池」から2kmしか離れていないことです。ラムサール条約の正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」で、渡り鳥等を国際的に保護するもので、1971年にイランのラムサールで採択されました。日本には53ヶ所の登録地があり、山形県ではここだけで、「定期的に2万羽以上の水鳥を支える湿地」という国際基準を満たしており、2008年に登録された重要な湿地です。コハクチョウ3000羽以上、マガモ3万羽などのほか、希少猛禽類のオオワシやオジロワシなども頻繁に飛来します。

風車は高さが180mで、高速で回転するので猛禽類の衝突の恐れや渡り鳥の飛来地の回避など重大な影響が懸念されます。

北海道ではこれまでにオジロワシやオオワシなどの大型猛禽類の衝突が71羽、青森県では2羽報告されています。世界のラムサール条約登録



湿地においてこれだけ近距離に風車が建設された例はなく（条約制定以前に既に建設されていた例は1件）、もし建設された場合、世界的に問題視されることになるでしょう。また、計画地の里山にはクマタカの営巣地もあり、繁殖への影響も心配されます。

第二は、身近な里山が壊されることです。この地域は標高が1000～2000mほどの雑木林で、「庄内海岸アルプスロード」として、特に春先は庄内地方でも早い時期に山野草が咲く山域として、ハイキングなどで親しまれています。多くの山林がスギの植林に変えられてこのような雑木林が少ない中で、風車運搬のための道路建設や建設のための森林伐採等で、オオミスミソウ、キクザキイチゲ、カタクリ、シラネアオイなどの林床の植物が破壊される心配がありますし、風車が建設されればすぐ脇でハイキングする人もいなくなるでしょう。

第三は、景観への影響です。鶴岡市の加茂地区は、2019年に日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に認定されています。船倉や洋館、車の入れない小路などもある港町の景観を、風車は損ないます。そのイメージの例が下のモニタージュ写真です。クラゲの展示で世界一有名になった加茂水族館もすぐ近くです。

第四は、風車による健康被害の恐れです。低周波音による健康被害の訴えが各地であります。環境省は健康被害を認めてはいませんが、この被害は個人差が大きく、睡眠障害や頭痛、めまい、耳鳴りなどでそこに住むことが困難になる人もいます。

自然保護団体、野鳥の会、地元NPO、山形大学農学部の教員が共同代表で「ラムサール湿地近

接地風車建設に反対する会」を結成して、貴重な自然と景観を守るために、反対運動と反対署名を開始しました。これまで、出羽三山地区や蔵王山の宮城県側の建設計画は、特に景観の問題が大きいとして反対の声が強まり、中止になりました。しかし今回はラムサールに登録された大山上池・下池の貴重さが地元市民に十分認識されておらず、丁寧に説明しないと理解してもらえない面があります。

昨年12月31日に鶴岡市で起きた地滑り災害でご夫婦が亡くなりましたが、そのこと建設予定地との距離はおよそ3kmで、同じような地質が周辺山麓にあり、風車建設に伴う影響は無いのか、引き続き署名活動を行いながら、地質等の調査も実施し運動を続けていく予定です。

皆様からこの取り組みに賛同いただけましたら、署名にご協力くださるとありがたいと思います。署名用紙は「ラムサール湿地地近接地風車建設に反対する会」と「日本野鳥の会山形県支部」のホームページからダウンロードできます。電子署名も可能で、1万を目標に取り組んでいます。

2月1日、皆川鶴岡市長が緊急の記者会見でこの風力発電計画に反対することを発表し、計画している会社JRE（エネオス傘下）にも通知したと表明しました。市長の英断だと思います。しかし、これで風力発電計画が中止になるわけではなく、会社JREがやめなければ事業は中止にはなりません。事業中止まで署名を中心に反対運動は続けます。

反対する会：<https://husyahantai.wixsite.com/husyahantai/projects-6>

風車を入れたモニタージュ写真 左端が加茂水族館
（企業から提供された写真を加工）



街角の平和論

『凍りの掌』が描く
“絶望と光”とは…

シベリア抑留の真実

田口 忠宣（歴教協）

漫画家おざわゆきが描いた「凍りの掌」(=こおりのて)は、父 小澤昌一の体験談を基にまとめたもの。教科書やテレビにも登場しない抑留の内容は、未だに終わっていない戦争の記録であり、父からの取材は壮絶そのもの…。「ヒトの死」がまるで「朝起きた」「食事した」等の日々の「茶飯事」と並列してるかのような錯覚になる。その非日常さの連続は、「慟哭」以外には表し得ない。おざわは若き日の母からの示唆が呪文のように心の奥底にこびりつき、25年の歳月を経て、作品づくりに奔走したのであった。



「生きて虜囚の辱めを受けず、死して罪禍の汚名を残すこと勿れ…」と1941年、東条英機からの「戦陣訓」は、太平洋戦争の戦線の兵士たちに強烈に浸透した。

「そこでは… “敵への投降はだめ！死を美化し、軍人としてのモラルは名誉ある玉砕あるのみ、民間人も含めての集団自決こそ、『英霊』としての道筋”…を促した。」それは、先の「沖縄戦」でも知るところである。

1945年8月のポツダム宣言の受諾から、大本営は敵からの拘束での「捕虜」ではなく、「抑留」の扱いとした。抑留とは日本だけでの表現でもあったのだ。

シベリア抑留は小林昭菜（法政大）によれば、「戦後ソ連へ抑留された日本人将兵」のことだと言う。宣言降伏後のことでもあり、それは国際法違反ではあるが…。

1945年8月23日、スターリンは国防委9898号指令の中で、「約60万人の日本人軍事捕虜の捕捉」としての収容所(=ラーゲ)移送を命じている。その目的は、独ソ戦争等で疲弊しきったソ連での労働力不足を補填するための、シベリア強制労働による国土再建であった。抑留者たちは、約60万人。極寒の地シベリアでの過酷な労働と「政治教育」は、三重苦(飢え・寒さ・重労働)の中で、「地獄と絶望」の日々の連続で、命がけの日常実態を体験した。その実態は後述する。

1956年、「日ソ国交回復」の「恩赦」で抑留者の解放があり、ナホトカ港からの帰還が出来た。しかし、「ダモイ」(=帰国)として故国帰還後は、「アカ弾圧・偏見・差別・忍従」の嵐の中での苦しみは想像を超えた。多<の元抑留者たちは、トラウマ・PTSDなどの苦しみで沈潜した。心からの解放は皆無に等しかった。

その実態の過酷さ *小沢の作品の中にある…その三重苦の叫び！

*「労働者の死者の数は最大を記録…」 「ギウダの収容所は半数が犠牲となり…」 「…とにかく壮絶の極み！」～

*「石炭の露天掘りは続く…」 「マイナス3度なら外に構わず出された…凍傷が後を絶たない！！！」 「…世の果て、そして地の果てでの死の恐怖…」 …これらは作品の絵図から噴出する。

収容所での1年目の死者は46,303人。 - 30 が日常の極寒の厳しさでの労働は凄惨を極めた。貧

弱な食料による栄養失調もあり、病死・自殺・逃亡は頻繁で厳しいノルマの下で、監視は重圧そのもの…。「地獄と絶望」の連鎖が。

(参考 死亡原因(=1946年)は、栄養失調(51.6%) 肺炎(12%) 結核(8.6%) 発疹チフス(5.5%) とある。)

特にハバロフスクでの高死亡率は、三重苦に加えて、捕虜の扱い・管理の不備・医療体制の貧弱さ(=麻酔なし・薬品不足・手術用具の不足など)が加わり、尋常さを超えていた。

何故日本人兵士が抑留されたのかについては、前述もしたが、戦後のスターリンとトルーマンの対立する「冷戦下」の中で、1)ソ連戦後再建の労働力として…。2)ソ連のイデオロギー発信からの「政治的戦士」(=「ソ連の種子」としての…)の役割を担わされたのだ。(2)については更に、1945年9月15日、そのプロパガンダとしての「日本新聞」(=日本語による…)発行からの“民主運動”として喧伝された。収容所内での日本人上官への恫喝・暴力批判～という反軍的な運動も絡んで、「官製の民主化」ともいわれ、文字通り「スターリンを主軸とするソ連共産主義(=ソビエト化)」に因るものであった。「友の会」などのサークルでの執拗な政治教育(=思想教育)は「アクチブ」という積極分子も登場した。全てが染まった訳ではないが、その浸透は強力なものだったと言う。

作品中でのおざわの父からの語りは、「絶望と地獄」の中でも、「ダモイ=帰国」を目指しての“豆粒ほどの小さな光”をともしながらの日々でもあった。その生きざまは、戦争の本質(=“生と死”)を余すことなく描くものだったに違いない。彼女は作品を通じて、「追体験や多少なりとも共有」を願うことを目指して若い世代にそのメッセージを発信したいと願っていた。

同じく、栗原俊雄はその著「シベリア抑留」(=2009年、岩波)の「あとがき」のなかで締めくくった事『…国策で巻き込まれた戦争の延長に、シベリア抑留がある。その責任はソ連はもとより、日本政府の謝罪や補償も皆無。70数年も経過した今なお、「その人間の尊厳回復のための闘い」を続けている。』『未完の戦争』がここにある。彼はその支援を怯まず継続している…と。

(追伸)その後、「いないはず(?)のシベリ

アに日本人女性がいた」ということが判明し、小柳ちひろ(=TVディレクター)が2019年の「女たちのシベリア抑留」で紹介した。移送された約60万人の中に、数百人の女性も含まれていたというので、大方は看護婦・交換手だったらしいが、その記録はなかった。「歴史から消されていた女性たち」でもあった。

小柳は、その後に取材を重ね、若き十代後半の女性たちが封印していた『自爆用の青酸カリを「護身薬」として所持していた恐怖の看護体験や、生理の止まりや、女囚としての棄民された体験など…』を詳細に明らかにした。

もちろん帰郷後の執拗な尋問や偏見・差別もあった。なかには「アーニャおばさん」のように、政治的粛清を恐れて、残ってソ連の住民として人生を終えた人もいた。彼女は晩年になって「帰りたかった。帰りたくないはずがない!…」とも漏らしたと言う。しかし…、彼女にも「語れなかった過去が…」～と。 《2022年8月28日》

<編集部注>

昨年末より公開されている映画「ラーゲリより愛を込めて」(監督:瀬々敬久 主演:二宮和也)で、シベリア抑留が描かれ、話題となっています。



(石垣島にて 早坂 画)



～ 随想 ～

沖縄で暮らす

守れるのは、 今を生きる私たち 一人ひとりなんだと

早坂 久佳（山形）

15年ぶりの石垣島、以前と同じ所を訪ねてさほど変わったわけでもないのだが、土地の高騰が顕著のようだ。私たちが選んだマンスリーのこのマンションを購入すると3500万円以上するそうだ。沖縄は温暖で住みやすく移住の場所として人気があるのは以前から言われていることだが、とりわけ宮古島と石垣島の土地の急騰は、観光客の増加と建設ラッシュによるものらしい。離島とは言え都市化により不便さも解消され、アメリカの基地がないのも要因の1つだろう。ただ、コロナ禍で今この状況がストップしていることと、自衛隊基地の受け入れも本島よりなにくるないさ的に決まったようで、状況は変わりつつある。



戦争被害について八重山平和記念館に行ってきた。そこでわかったのがマラリア被害だった。戦争マラリアとは、太平洋戦争末期に、八重山郡の住民が日本軍の命令によりマラリア有病地帯へ強制移動させられ、多くの方がマラリアに罹り、亡くなったことをいう。

本島の激戦地とは違った被害とは、地上戦はなかったものの空襲があることで強制避難させられ、石垣島と西表島のマラリア有病地帯で3000名あまりの命が奪われたという。

また、通り道で見つけた尖閣列島戦時遭難死没者の慰霊碑では台湾への疎開途中で船が攻撃され80名の方がなくなっている。どちらの碑も後世に伝え、人類の恒久平和を祈念している。



戦争による二次的被害というのだろうか。見えない放射能もその一つだし難民の飢餓等、戦争がもたらす破壊だけではない。今ソ連によるウクライナ侵攻が始まり、無差別攻撃の様相がわかってきた。世界中の批難の中、ウクライナの抵抗で長

引いている状況からか核をちらつかせているプーチンに、国連は何も出来ないのだろうか。国連憲章では国際の平和と安全を維持することとあるのに、侵攻批難の決議が否決され手が出せない状況。

これでは、二度と戦争は起こすまいと誓った日本国憲法を変えて、仮想敵国への軍備増強に走る口実になってしまう。これらの碑が何を願って建てられたか多くの人達が嘔みしめ、石垣と宮古の基地が標的にならないようにしたいものだ。なぜなら、島時間と言われ観光で訪れる人達に癒やしを与えてくれる温暖で平和な島が一変しないような努力は必要だから。



宮良川のカヌーで案内してくれた島人(しまんちゅー)と交流し、いろいろな話を聞いた。石垣に温泉施設も銭湯もないので、あ

ればどうなのかと聞いたら、あんな熱いものに入ってもらえないという。シャワーで十分らしく、浴槽があると物置になるらしい。雪には憧れるが温泉には興味がないようだ。

彼は経営者で、この川で20軒ものカヌー業者があるらしいが、経営のほとんどが移住者で最近流行のナイトツアーはその人達のアイデアだと。夜星が見えるのは当たり前でそれで仕事にしたいと思わないそうだ。犬とカヌーに乗れたのも、彼が同種の犬を飼って理解していることで実現した。犬は迷惑だったようだが、周囲は驚きの目で見えてくれ飼い主は至福の時間を過ごせた。沖縄は世界遺産や天然記念物に指定され、ペットの制限が厳しくなっている。

東日本大震災やコロナ禍で感じたことだが、何げない当たり前の日常がいかに幸せなことを。また、過ちを繰り返さないよう願いが込められた祈念碑を直に受け止め、この小さな島も脅かされないように守っていくのは、今を生きる私たち一人ひとりなんだと。



早坂 画